



新潟県

教育月報 6月号

第749号
平成24年6月1日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

<今月号の記事>

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1 : ユネスコスクールの活動紹介 | ----- P 1 ~ 5 |
| 2 : 佐渡金銀山の世界遺産登録への取組 | ----- P 6 ~ 8 |
| 3 : 地域資料を活用した授業実践のすすめ | ----- P 9 ~ 10 |

ユネスコスクール加盟促進に向けて
～ユネスコスクール加盟校の活動紹介～

生涯学習推進課
義務教育課
高等学校教育課

はじめに

県教育委員会では、平成21年からユネスコスクールへの加盟を推進しています。本県の平成24年5月現在のユネスコスクール加盟校は20校、加盟申請中が3校となっています。

本号では、ユネスコスクール加盟校におけるESD（持続発展教育）の視点に基づいた様々な活動の様子を紹介します。ユネスコスクールとESDについて理解していただき、是非、ユネスコスクールへの積極的な加盟をお願いします。

ユネスコスクールとは

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。平成23年6月現在世界180以上の国・地域で約9,000校以上のユネスコスクールがあります。

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け、加盟校増加に取り組んでいます。ユネスコスクールの活動目的は次のとおりです。

- (1) ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと
- (2) 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと

<『ユネスコスクールと持続発展教育(ESD)』(日本ユネスコ国内委員会)より>

1 ユネスコスクールの活動

以下の4分野を基本テーマとして設定し、各学校において取り組んでいきます。

- ◇地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ◇ESD（持続発展教育）
- ◇平和、人権の理解と促進
- ◇異文化理解
- ※その他ユネスコの理念に沿ったテーマ

2 ユネスコスクール加盟のメリット

- (1) ユネスコ本部（パリ）から認定証が送付されます。
- (2) 世界中の参加校（約9,000）との交流機会が増加します。
- (3) ログインID・パスワードの取得により、ユネスコスクールWebページからの情報発信が可能になります。

3 ユネスコスクールWebページの活用

ユネスコスクールとは何か、ESDとは何かという基本情報の他、ESDの事例や教材の紹介、情報発信の場の提供等の情報を掲載しています。ユネスコスクールに関する情報収集等に活用してください。

※本Webページからも、ユネスコスクール加盟申請の申込み手続きができます。

【ユネスコスクールWebページ】
<http://www.unesco-school.jp>

ユネスコスクール加盟校の活動紹介

1 小学校での活動の概要

【十日町市立飛渡第一小学校の活動】

活動テーマ：E S D（環境・伝統文化・国際理解・食育他）

～ふるさと環境学習～

毎年、夏休みの最初の日曜日に「飛渡川で遊ぼう」の会を開催している。公民館や濃実会（町おこしの会）の方々の協力の下、飛渡川で「魚のつかみ取り」「川をせき止めた天然プール遊び」「生き物探し」「ヤマメの放流」「クリーン作戦」を行っている。また、地域の老人会や保護者の協力で、すじまき、田植え、稲刈り等の米作り体験を毎年行っている。特に昨年度は牛耕や機械作業等の経験をすることができた。

この他にも中魚沼漁業協同組合からサケの卵200個をいただき、温度管理や水管理を毎日行い、3月中旬には飛渡川に放流した。

こうした地域の自然を生かした活動により、児童が「ふるさと飛渡」に愛着をもち、ふるさとを大事にして、これから先も守っていこうとする気持ちを育む大事な活動となっている。



【ヤマメの放流:大きくなって帰ってきてね】

【柏崎市立北鯖石小学校の活動】

活動テーマ：E S D（国際理解・平和人権・環境・生物多様性・防災・伝統文化・食育他）

～ず～っと、ずっと地球となかよし～

E S Dの視点から授業や学校行事を見直し、教育課程を編成した。全学年のE S Dカレンダーの作成、E S Dの視点からの授業改善、自然や地域と人とのふれあいを大切にした体験活動等の工夫に取り組み、児童の問題解決力の育成や心の教育を行っている。



【地域の人々と考える「農業の未来」】

1・2年生では、家族のつながり、生き物とのつながりを大切にした活動、3・4年生は、地域の生活や自然のつながりを大切にした活動を展開している。

5・6年生では、学習したことを基に、未来と自分とのつながりを大切にした活動を行っている。5年生は、稲作体験を基に、農業の未来に大切なことを考え、地域の方と北鯖石の農業の未来について考えた。6年生は、自然・食・文化・観光等から、柏崎の魅力を考える活動を行った。

学年を追って学習したことを基に、未来と自分とのつながりを学習するように、学習内容が身近なものから地域や国際的な役割へと同心円的に広がるように工夫している。

【佐渡市立相川小学校の活動】

活動テーマ：E S D（世界遺産・環境・伝統文化）

～相川のすばらしさを学ぶ「はつらつタイム」～

3～6年生の「はつらつタイム（総合的な学習の時間）」では、体験活動をとおして問題意識を高め、共通テーマを設定する。そこから個人テーマを決めて追究を行うことができるような授業構成を工夫して実施している。

3年生は「相川探検隊」の単元で、相川の素晴らしさを発見していた。4年生は、「タンタンたぬきの団三郎」の単元で佐渡むじなの伝説を調べたり、たぬきの生態と森林環境の関係を学習したりした。5年生は、「唄い、奏で、踊ろう！佐渡おけさ」の単元で、歌と器楽演奏、踊りを習い、伝統文化を引き継ぎたいという思いを高めていた。6年生は、「ぼくらが伝える黄金伝説」の単元で、佐渡金山について学習した。その後、実際に「金山ガイド」として、佐渡金山を訪れた観光客の前で、自分が学んだことの説明を行った。

この他にも6月と10月に「相川クリーン作戦」（地域のゴミ拾い活動）を行っている。世界遺産登録候補地の環境美化のため頑張ろうという気持ちを高めている。



【「金山ガイド」として説明する6年生】



2 中学校での活動の概要

【長岡市立南中学校の活動】

活動テーマ：E S D
(国際理解・平和人権・環境)

2年生の「総合的な学習の時間」で「平和学習」を行っている。広島の中学生を招いたり、修学旅行で広島に行ったりしての交流、戦争体験者や戦災被害者の話を聞いてのドキュメンタリー映像の作成、ハワイアリゾナ記念館とのTV会議等を使ったハワイの中学生との交流等を行っている。

この他にも、生徒会の活動として、整美委員会を中心に、学区内の緑花センターボランティアを行っている。そこで学んだことを生かして緑のカーテンづくり等にも取り組んでいる。

また、2年生後半～3年生前半の期間、海外の中学生と1対1で、毎月1回程度のE-mail交換を行っている。



【戦争と平和を語る会の様子】

【南魚沼市立大巻中学校の活動】

活動テーマ：E S D
(国際理解・平和人権・環境)

3年生は、人権・環境問題に対する意識を高めるとともに、諸外国と日本の考え方や取組の違いを知るために、国際大学の学生との座談会を行った。

事前に、生徒それぞれが「いじめや差別をなくするためには何が必要なのか」等の考えをまとめ、座談会に臨んだ。外国におけるいじめの問題や国際大学の学生が実際に受けた差別についての話を聞き、それに対する取組を話し合った。また、東日本大震災に対して、お互いが感じたことを発表し合い、原子力発電所の必要性についての意見交換も行った。

この活動により、生徒は、人権意識を高めるとともに、現在の日本が抱えている原発問題等について考えを深める契機となった。



【国際大学の学生との座談会】

3 中等教育学校・高等学校での活動の概要

【新潟県立燕中等教育学校の活動】

活動テーマ：E S D
(国際理解・環境・エネルギー・伝統文化他)
～「Be Global! いま私たちにできること」～

1年生では、伝統が育んできた燕の研磨技術をテーマに伝統工芸品である鋳起銅器の製作体験等の地場産業の研究を行っている。またエネルギーと環境の関係を学ぶため、火力発電所や製紙工場の見学を行ったり、グラウンドの芝生化や海水浄化活動のための鉄炭団子製作にも取り組んだりしている。この他にも、グローバル部を中心に、教育を受けることが困難な状況にある世界の子どものための識字問題解決のために「ユネスコ寺子屋プロジェクト」に協力している。

生徒たちは互いに協力しながら多くの活動を進めている。そうした活動をととして、コミュニケーション能力や学び合い、教え合いの精神が養われ、地域のよさを再発見する機会にもなっている。



【地場産業の研究】

【新潟県立国際情報高等学校の活動】

活動テーマ：E S D
(国際理解・平和人権・環境・食育)

海外研修として、米国、豪国の姉妹校等へ1年生を派遣し、学校体験、ホームステイを行った。

また、エバンストン高校(米国イリノイ州)から、生徒と教員が本校を訪れ、学校体験を行うなど相互交流を行っている。

これまで実施してきたカリキュラムに、国際理解・環境教育の観点からE S Dにつながるように意識して活動を行っている。これにより教育活動がより充実した。

ボランティア委員会による高齢者ボランティアにおいては人権の観点から、ユネスコ部では食育の観点から活動を行っている。ユネスコスクールとしての理解が深まっており、これらの活動が生徒により、主体的・意欲的に行われている。



【エバンストン高校生の授業参加】

4 教育委員会を中心にユネスコスクール加盟を促進する見附市の取組

見附市では、市内の全小中学校や保育所等を対象に、身近な活動を通じて環境について考える「アースプロジェクト」を実施しています。

アースプロジェクトは、環境保全の取組を全校レベルで実践する事業です。この活動の一環としてユネスコスクール加盟推進による環境教育を中核としたE S Dの取組が、各学校において展開されています。5月1日現在、小学校5校、特別支援学校1校が加盟校として活動しており、3校が加盟申請中となっています。

※見附特別支援学校は、特別支援学校では全国で初めてユネスコスクールに加盟承認されました。

※見附市立今町小学校が、平成24年4月2日付けでユネスコスクールに加盟承認されています。

【見附小学校の活動】 活動テーマ：E S D（環境）

環境教育全体計画を「花育」中心に整理し、生活科や総合的な学習の時間に位置付け、E S Dの考えを活かした学習活動を行っている。

見附市のアースプロジェクトに合わせて「(校舎) 高温化防止エコノミープロジェクト」を推進し、その一環として5年生は保護者の協力の下、南側校舎にグリーンカーテンを設置した。

今後は地域の有識者を中心とした「見附の学校づくりを語る会」を発足させ、活動を支える体制づくりを進めていく。



【保護者ボランティアと花壇整備】

【見附第二小学校の活動】 活動テーマ：E S D（環境・気候変動）

環境教育部を中心にこれまでの校内活動を生かしながら、家庭や地域を巻き込んで活動を進めている。

校区にある「新潟県見附杉沢の森」を当校の第二校舎として位置付け、生活科や総合的な学習の時間等の学習を行っている。

また、昭和44年度から見附市の依頼を受け、グラウンド等の降積雪量の観測を行っている。観測や統計資料等の集積により、温暖化傾向の状況をつかむことができています。



【登校後、積雪深を計測する様子】

【上北谷小学校の活動】 活動テーマ：E S D （環境・生物多様性・防災・伝統文化・食育）

当校は、自然豊かな学区の地域素材を学ぶの中に積極的に取り入れている。教育プロジェクトチームがE S Dの理念を生かし、「生活科」や「総合的な学習の時間」を中核とした教育課程に地域素材を位置付け、全学年で取り組んでいる。

特に、食農体験学習や環境学習は6カ年の連続性のある取組を行っている。上北チーム農援隊、花咲隊などの地域支援の皆さんや専門家の指導を受ける等、様々な取組を行うことで、E S Dの学習内容に深まりと広がりが出てきている。



【地域の方とのサケの放流(刈谷田川)】

【田井小学校の活動】 活動テーマ：E S D （環境・国際理解・エネルギー・食育他）

地区コミュニティと協力して、学校グラウンドの築山と学区内の道路周辺に芝桜等の花の苗植えを行った。学校周辺の環境づくりを共に行うことで、学校と地域の一体化がより強化された。

また、環境委員会を中心に様々な「エコ生活を意識した活動」を計画し、全校で取り組んだり、季節にあった花や植物で校内外の環境整備にも取り組んだりしている。



【地区コミュニティの方々との芝桜苗植え】

【見附特別支援学校の活動】 活動テーマ：E S D（平和・人権）

名木野小学校や田井小学校、南中学校の児童生徒と、日常的に交流活動を実施している。障害に関係なく、どの子も一緒に遊んだり、活動したりする姿が日常的に見られている。

また、作業学習で製作した作品を地域の公共施設で販売したり、授業で学んだ清掃の技術を生かして公共施設で清掃活動を行ったりした。

販売や清掃を通して、地域住民と積極的に関わる姿が見られるようになり、地域住民の特別支援学校で学ぶ児童生徒への理解も深まっている。



【販売活動:地域の人々との関わり】



ESDとユネスコスクールの関わり

1 ESD（持続発展教育）って何？

～E（えっ）S（それって）D（どんなこと）？～

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で、日本ユネスコ国内委員会では「持続可能な発展のための教育（持続発展教育）」と訳しています。

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとはこれらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまりESDとは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。
 <『ユネスコスクールと持続発展教育(ESD)』(日本ユネスコ国内委員会)より>

(1) ESDの実施の視点

ESDの実施には特に以下の2つの視点が必要です。

- ◇人格の発達や、自律心、判断力、責任感等の人間性を育むこと
- ◇他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと

(2) ESDの基本的な考え方

環境、経済、社会等の関連する各分野を「持続可能な社会の構築」の観点からつなげて総合的に取り組むことが重要です。

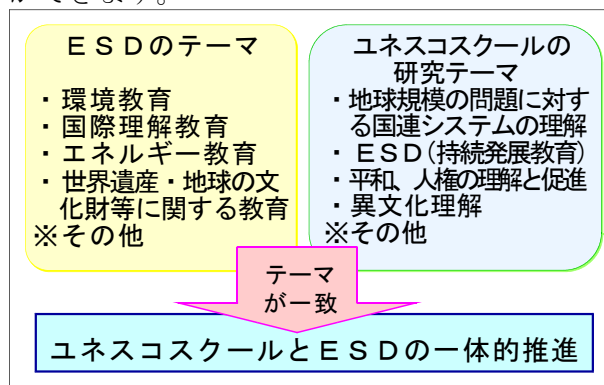


【『ユネスコスクールと持続発展教育(ESD)』(日本ユネスコ国内委員会)より】

2 ユネスコスクールによるESDとは
 ～E（いいね）S（それなら）D（できそう）！

(1) ユネスコスクールとESDの一体的推進

ESDのテーマとユネスコスクールの研究テーマは一致しています。ユネスコスクールの取組をとおして、ESDの推進を図ることができます。



(2) ESDの視点による取組

児童生徒の主体的な学びを支援し、コミュニケーション能力や問題解決能力を育むという点ではESDと「総合的な学習の時間」が目指すところは同じです。ESDにおいては、更に、「社会の中で共に生きる力」「国際的な視野」「未来への見通し」等の視点がより明確になってくるといえます。

ESDは、全く新しいことに取り組むことではありません。これまで各学校で行ってきた取組を生かし、ESDの視点により、地域や地球の未来に目を向けることがESDの取組及びユネスコスクールの活動につながっていくのです。

おわりに

本号で紹介したユネスコスクール加盟校の活動概要及びユネスコスクール加盟申請の手続きについては下記Webページに詳しく掲載しています。どうぞ御覧下さい。

新潟県教育庁義務教育課

にいがたスクールECOガイド

Welcome to Niigata School Eco Guide Website

【環境教育Webページ】

<http://www.pref-niigata.com/kankyokyoiku/>



佐渡金銀山を「再発見!!」

文化行政課



佐渡を世界遺産に

はじめに

独特の文化と豊かな自然を抱える佐渡は、県内小学生の修学旅行先として根強い人気があります。佐渡への修学旅行の訪問先として多くの学校で選ばれているのが、相川の史跡佐渡金山です。史跡佐渡金山は現在、世界遺産候補「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を構成する資産の1つになっています。

本号では、この遺産群の世界遺産登録に向けた取組と、遺産群の学習に役立つ教材について紹介します。



【佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観
(砂金を採掘した跡の残る虎丸山)】

世界遺産になるために

1 遺跡等の保護

ユネスコの世界遺産は、各国の力を結集して人類共通の貴重な遺跡や建築物を災害や乱開発といった脅威から守り、次世代に継承していくことを目的としています。世界遺産登録に際しては将来へ向けた遺跡等の確実な保存管理が求められるため、我が国から世界遺産となるには、文化財保護法に基づいて国の文化財に指定され保護が約束されることが必要となります。県と佐渡市は、「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を構成する資産が史跡や重要文化財、重要文化的景観※といった国の文化財に指定・選定されることを目指し、その歴史的価値を明らかにするための調査に取り組んできました。この3年ほどの間で、ふきあげ吹上海岸やかたべ片辺・かのうら鹿野浦海岸の石切場、きたざわ北沢浮遊選鉱場等の近代遺跡群、鶴子銀山が史跡に、佐渡奉行所跡出土品が重要文化財に、西三川の砂金山由来の農山村景観が重要文化的景観にそれぞれ指定・選定され、世界遺産登録に向けた遺跡等の保護が急速に進展しました。この他の遺跡等についても、国文化財指定のための調査をさらに進めていきます。

※重要文化的景観…平成17年度に新たに制定された文化財の保護制度。地域の人々の生活・生業によって形成された景観地のこと。

2 遺産群の価値を訴える推薦書の作成

世界遺産に登録されるためには、日本政府からユネスコに対し推薦書を提出する必要があります。現在、県と佐渡市は「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の推薦書作成の準備を進めています。ここで重要となるのが遺産群の価値を訴えるストーリーの組み立てです。登録の可否を決定するユネスコ世界遺産委員会に「これは世界遺産にふさわしい」と納得してもらえるよう、遺産群をどのようなストーリーで世界に説明するかがポイントとなります。様々な分野の専門家8名から成る佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会で議論を重ねてきた結果、次の点が佐渡鉱山の遺産群のストーリーの骨子になるとされました。

- ・600年にも及ぶ長い金銀採掘の歴史を有すること
- ・各時代の鉱山技術の痕跡が良好に残存すること
- ・佐渡で産出された金が海外へ流出し、19世紀の各国における金本位制採用といった経済動向に影響を与えたこと

今後もさらに調査と検討を重ね、世界が納得するストーリーを組み立てていきます。

3 登録へ向けた地域の熱意

ユネスコ世界遺産委員会の審議では地域の



熱意も問われることから、遺産群の価値を理解し将来へ守り伝えていこうとする県民の姿勢も重要です。そこで、県と佐渡市は講演会やシンポジウム、パネル展等により県民への普及啓発を進めています。また、佐渡島内では遺跡等の保護に取り組む民間団体も設立されており、住民が主体となって世界遺産登録活動に参画する場も増えてきました。今後も県民全員で世界遺産登録への気運を高めていけるよう、行政と民間が連携した活動を進めていきます。

学習教材の修学旅行への活用

将来の遺産群の保護活動を担う子どもたちの育成も重要です。平成21年度から開始した佐渡金銀山出前授業は、昨年度は佐渡島外の小学校55校で実施しました（出前授業については[新潟県教育月報第725号](#)で紹介）。出前授業は主に小学校の修学旅行の事前学習と位置付けられ、「出前授業で聞いた話が見学の際に役に立ったので、ぜひ今年度もお願いしたい。」との声もあり、好評を博しています。

また、県と佐渡市では、この出前授業や総合的な学習で活用できる学習教材「再発見!! 佐渡金銀山」を、小学生向けと中・高校生向けの2種類作成し、希望する学校に配布しています。佐渡での長期間にわたる金銀採掘を時代を追って学習でき、この教材で予習することにより修学旅行が「本物」と出会う有意義な体験となります。小学生の頃の印象深い体験は、郷土の遺産群を誇りを持って守り伝える人材の育成につながるものと考えています。

学習教材を修学旅行の事前・事後学習や総合的な学習の時間等で活用する場合は、各学校の児童・生徒数分を送付しますので、お問い合わせください。また、下記Webページから電子版をダウンロードすることも可能です。

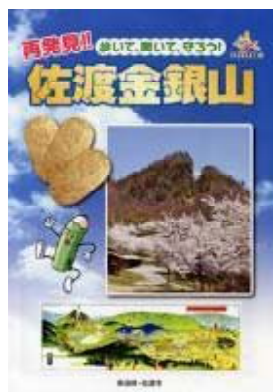
〔出前授業・学習教材のお問い合わせ先〕

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室

電話025-280-5726(直通)

<http://www.pref.niigata.lg.jp/bunkagyosei/1196266594688.html>、あるいは新潟県庁トップページから

「佐渡金銀山」で検索



【左：小学生向け、右：中学生・高校生向け】

出前授業と学習教材を活用して

昨年度、佐渡への修学旅行に際し出前授業と学習教材を活用した事例を紹介します。

—新潟市立万代長嶺小学校での様子—

当校では佐渡への修学旅行の1日目に3グループに分かれてコース別学習を行いました。そのうちの1つが「世界遺産を目指す相川探訪コース」です。学年の半数の32人がこのコースを選びました。

事前学習ではインターネットで金山や相川について調べましたが、断片的な情報しか集められず全体をとらえることができませんでした。そこで金山についての全体像をつかませたいと考え、出前授業と学習教材送付を申し込みました。

出前授業は佐渡の自然や歴史など私たちの修学旅行コースに合わせた説明から始まり、金山や世界遺産登録についてスライドを使って分かりやすく教えていただきました。



【出前授業の様子】



学習教材「再発見!!佐渡金銀山」はその後の調べ学習で活躍しました。文章が平易であるとともに地図や用語解説が充実していて、児童にも理解しやすい内容でした。特に、写真が豊富でイメージしやすい点がこの教材の一番のよさだと思います。

修学旅行で実際に北沢浮遊選鉱場おおだてたてこうや大立堅坑を見学した児童は、その大きさに驚いていました。事前に教材で写真を見ていたものの、実物と向き合うことは児童にとって大切なことであると改めて感じました。



【大立堅坑内の見学】

また、教材の鉱山技術の頁で「石うすで鉱石をひく」場面や「ねこ流し」の場面の写真を見て、修学旅行へ行く前から児童は強く興味を持っていたようです。当日、佐渡奉行所で説明を受けた後、体験の時間になると我先にとそれぞれの体験コーナーへとんでいく児童が多く見られました。後日書いた感想文では、この体験の面白さや作業の大変さに触れた児童が多くいました。この点からも、児童にとって実体験が大切であることを感じました。

出前授業で世界遺産登録への熱い思いを聞いたおかげで、修学旅行後、家庭学習で日本の世界遺産を調べた児童や夏休みの自由研究で日本と世界の世界遺産をまとめた児童など、世界遺産に興味を持った児童が多く見られました。佐渡に詳

しい方からお話を聞き、分かりやすい教材で調べ学習をする。この2つをセットに事前学習をすると、佐渡への修学旅行がとても充実したものになると実感しました。

学習教材の歴史教育への活用

小学校の修学旅行に関連した活用が多い学習教材ですが、高校で活用した例もあります。中・高校生向け学習教材には、『今昔物語集』に記された佐渡の金「世阿弥と『金島書』」「外国と佐渡の金銀」といったコラムがあり、これらは日本史や世界史の中での佐渡金銀山の位置付けを考察するきっかけにもなります。ある高校では、世界遺産全般についての学習に加え、江戸時代や明治時代の政治体制と佐渡金銀山との関係や世界貿易の中での佐渡の金銀の流通経路の考察などをとおして、佐渡金銀山の歴史が日本の歴史に、さらには世界の歴史につながっていることを学んでいきました。

日本史の教科書に出てくる「今昔物語集」「世阿弥」「奉行」「御雇外国人」などは、佐渡金銀山の歴史と密接に関係しています。日本史や世界史の授業の中で佐渡金銀山の歴史におけるこれらの役割を考察することにより、日本や世界の歴史が郷土史の積み重ねから成ることも理解できます。生徒たちも、それまでは「遠い昔の遠い所でのできごと」と思っていた歴史を、より身近なものと感じることができるよう。

おわりに

平成24年3月20日に朱鷺メッセで開催した国際シンポジウムでは、羽茂高校郷土芸能部による佐渡民謡が披露されました。同校のように佐渡金銀山と関係の深い文化を発信する活動も、佐渡金銀山の世界遺産登録を後押しするものです。各学校でも、佐渡に関した取組を検討されてははいかがでしょうか。



県立文書館では学校教育への支援を行っています

県立文書館

はじめに

県立文書館では、所蔵する地域資料（古文書や公文書など）を学校で活用していただくために「学校教育支援事業」を展開しています。特に、授業に対する支援では、現物の古文書や公文書を地域資料として活用することで、児童生徒の興味関心を高め、教職員の創意工夫をより効果的なものとします。また、活用場としては社会や地歴・公民の授業に限らず、総合的な学習の時間や文化祭での研究発表など、様々な場を考えています。

な修復、講座や展示の補助など、文書館の様々な仕事を体験することができます。



【昨年度の職場体験の様子】

学校教育支援事業の概要

事業名	対象	日時等
①活用講座	教職員	8/3(金)
②職場体験	児童生徒	1～3日程度
③文書館見学	児童生徒	1時間程度
④教材研究支援	教職員	随時受付
⑤調査活動支援	児童生徒	随時受付
⑥たよりの発行	各学校	年2回配布

① 教員のための文書館活用講座

教職員が文書館の利用方法や地域資料の活用例などを学ぶ講座です。授業で使える現物の地域資料も見えていただきます。



【昨年度の講座の様子】

② 職場体験

キャリア教育の一環として児童生徒の職場体験を受け入れています。資料の整理や簡単

③ 文書館見学

館内を見学しながら文書館の様々な仕事や役割について説明します。書庫見学の際には、文書館が所蔵する地域資料を見ていただくことも可能です。

④ 教材研究支援

教職員を対象として、授業の素材となる地域資料の所蔵又は活用方法についての相談があればお寄せください。

例1)勤務校周辺の江戸時代の絵図はないか？

例2)新潟地震に関する資料はないか？

⑤ 調査活動支援

児童生徒が社会科や総合的な学習の時間での課題、夏休みの自由研究などについて、参考となる資料を探すなど、調べ学習のお手伝いをします。来館又は手紙・電話で質問をお寄せください。

⑥ 文書館だよりの発行

文書館では、たよりを年2回発行し、各学校に送付しています。所蔵資料の紹介など、授業に役立つ情報も掲載されていますので、是非御活用ください。

おもな地域資料とその活用

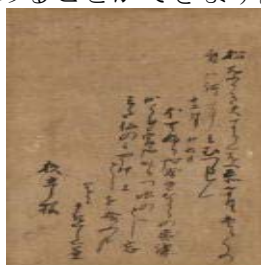
文書館では、県内各地から寄贈、寄託された古文書の他、公文書や明治時代以降の各種新聞（複製）、教科書など、様々な資料を数多く所蔵しています。以下、その一部を紹介します。

1 歴史上の人物の書状を読む

教科書に登場する人物の書状を活用して、児童生徒の興味関心を高めることができます。



【上杉謙信書状】



【小林一茶書状】

2 昔の地図を活用して地域の歴史を学ぶ

江戸時代から現代までの様々な地図を地域学習の素材として用いることができます。



【昭和7年の新潟市街図】

3 昔の教科書を見る

明治時代から昭和戦前期と現代の教科書を比較して、その違いを学ぶことができます。戦後の墨塗り教科書も所蔵しています。



【墨塗り教科書】

文書館Webページ活用のすすめ

来館できないという場合には、文書館のWebページを活用することをおすすめします。主な内容は、以下のとおりです。

○ 所蔵検索

所蔵資料のデータベースを利用します。歴史事項や市町村、年代などを入力すると、関係する資料の所蔵を確認することができます。

○ インターネット古文書講座

文書館所蔵の古文書を画像で紹介し、江戸時代の庶民生活などを学ぶコーナーです。授業でも楽しく活用できる内容となっています。

○ 越後佐渡デジタルライブラリー

文書館だけでなく、県立図書館が所蔵する古文書や地図、写真など多様な地域資料を画像で見ることができ、さらにダウンロードや印刷も可能となっています。また、新潟県の歴史の概説書『新潟県のあゆみ』の全文が掲載され、自由に加工できる新潟県年表もあります。

おわりに

文書館では、今まで以上に学校教育の支援に努め、先生方をサポートしていきたいと考えています。今回紹介した内容以外でも、さまざまな相談に応じますので気軽に文書館まで御連絡ください。

県立文書館

電話 025-284-6011

<http://www.archives.pref.niigata.jp/>

※PDFファイルで御覧の方は、下線部（URL）をクリックすると、

直接該当Webページへジャンプしますので御活用ください。

Webでも御覧ください。バックナンバーも御覧になれます。「教育月報」で検索！

教育月報



発行所 新潟県教育庁総務課
所在地 〒950-8570
新潟市中央区新光町4番地1
電話 025-280-5587 F A X 025-285-3766
E-mail ngt500010@pref.niigata.lg.jp
WebページURL <http://www.pref.niigata.lg.jp/kyoikusomu/>